



国鉄闘争全国運動6・18集会を開催

国鉄闘争全国運動は6月18日に江戸川区総合文化センターで全国集会を開催しました。670人が結集し、国鉄闘争から労働運動の再生を展望し11・19労働者集会の成功に向けた取り組みを確認しました。

集会では関委員長が基調し、関西地区生コン支部からは、和歌山での弾圧に対する高裁での完全無罪判決を勝ち取った報告がなされました。1047名解雇撤回闘争では中村副委員長と弁護団が井手・深澤を法廷に引きずり出し真実を明らかにさせ闘争に勝利する決意がされました。廃線化攻撃を闘う、久留里線と地域を守る会の代表から久留里線を含めた公共インフラである鉄道の必要が訴えられました。

前日の17日、千葉市文化センターで開催された「6・17討論集会」では、港合同木下執行委員、自治労広島市労働組合前委員長福井さん、三浦半島地区教組事務職員部長柗淵さんより提起を受け、活発な議論がされました。

動労千葉を支援する会

2023年度定期総会

日時 7月29日(土)13時～

場所 DC会館大会議室

総会終了後、動労千葉組合員との交流会を行います。

動労千葉を支援する会 ニュース

2023.6.19
380

動労千葉を支援する会事務局
千葉市中央区要町2-18 DC会館
〒047-2002 7820
メールアドレス dc-info@deluxe.ocn.ne.jp
FAX 047(2002)7820
〒047-2002 3192036

5月19日から21日のG7広島サミット。ただただロシアや中国への敵意と憎しみをあおり、ゼレンスキーまで呼んできてウクライナへのさらなる武器供与を約束し、戦争を拡大することだけが宣言されました。この攻撃に対し、「戦争会議」粉砕を掲げて断固デモを闘った仲間の皆さんに心から敬意を表します。

今年の春闘を振り返ると、労働運動をめぐる大きな転機だったと思います。岸田は春闘を振り返って、「30年ぶりの賃上げ」だと語り、4月の連合中央メンバーでは「賃上げを中小企業へ広げるために全力を尽くす」といっています。「賃上げは政府のおかげ」と言わんばかりです。しかし、実際は事実上の大幅賃下げです。非正規の賃金は、最低賃金レベルに固定され、格差はさらに拡大しています。連合は自民党にすり寄って「お願い」するばかりで、「労働組合の闘いによって賃上げをかちとる」というあり方も、労働者の権利という考え方もなくなってしまうています。

だからこそ私たちの手で闘う労働運動、階級的労働運動を再生させなければなりません。国鉄分割・民営化と闘い抜き、1047名解雇撤回を掲げて闘い続けてきたことの意義は非常に大きい。

関委員長・基調報告 (抜粋)

一歩ずつ、しかし大胆に、 すべてを11月集会結集へ



職場では、融合化と組織大再編の攻撃が吹き荒れ、JR東日本を鉄道会社でなく、「鉄道も経営するIT企業」に変えるんだということまで打ち出されています。改めて国鉄闘争を軸に階級的労働運動の再生をかちとるこの闘いに、そして11月労働者集会にもう一度かけてほしいと思います。

6月13日の幕張事業所での職場代表選挙で私が6回目の当選をかちとり、CTSから1名の新たな仲間が入ってくれました。たしかに一歩ずつの前進です。地道に闘いを進める事が一挙に事態を動かす力にもなると。みなさん一歩ずつ、しかし大胆に、すべてを11月集会結集につなげて共に闘いましょう。

CTS 職場代表選挙

関委員長が6回連続当選！

今年度のCTS職場代表選挙が6月13日に開票され、幕張事業所では今年も関委員長がCTS労組委員長に大差をつける勝利で6回連続の当選をかちとりました。津田沼事業所では相馬支部長が立候補し22票を集め、千葉事業所では花崎組合員が昨年に続き立候補し26票を獲得し善戦しました。

CTS幕張でH君が加入！

CTS幕張事業所(清掃)で働くH君が、6月1日付で動労千葉に加入してくれました。組合員に向けたあいさつを紹介します。

「初めまして。新しく加入しました。CTS幕張事業所クリーンの整備係で勤務しています。動労の活動は、日頃よく拝見させてもらっています。加入した理由は、今までCTSで勤務していて、思ったより収入が低いと思い、活動して少しでも見直して頂けたらと思っています。なかなか上手いことですが成果になるようやっていきたいです。行事にもできる限り参加して貢献したいと思います。よろしくお願いします。」

「JR東日本を鉄道会社でなく IT企業に変えてしまおう」

4月26日の日経新聞が「JR東、鉄道を持つIT企業に」という見出しで特集記事を報じた（26日から上中下の3回シリーズ）。この間、職場でさかんに叫ばれている「モードチェンジ」「変革のスピードアップ」の正体をあからさまに暴露するものだ。

深澤社長らはJR東日本を、鉄道会社でなくIT企業に変えてしまおうというのだ。鉄道事業に従事するものは会社の「傍流」として扱い、ビッグデータや保有不動産を活用した金もつけこそが一切だという姿勢だ。

記事では、スイカの発行枚数（9300万枚超）は、楽天やヤフーのID登録者数に匹敵する数だが、そうした「資産」が十分に生かせていないとし、来年春には「JREバンク」なる銀行を

立ち上げて紐づけ「広域デジタル経済圏」で囲い込むことに注力、他方、駅や駅周辺で保有する不動産を転がして利益を追及するとしている。現在、運輸業の利益率は1%で、流通・サービス（14%）、不動産・ホテル（23%）に劣るとし、非鉄道部門の収益を5割にまでもっていくとしている。この数年の間に進められてきたJR東日本本社を筆頭に、末端のグループ会社にまでいたる組織再編の目的は、こうした「IT企業化」に置いているということだ。

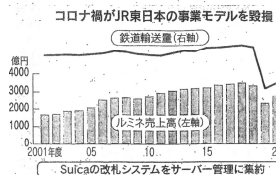
銀行設立、客の囲い込み

鉄道業務は4千人減、

1000億円カット

鉄道業務はどうなってしまうのか。それは、「鉄道事業の放棄」とすら言えるものだ。通常の車両運行には、とことん「人

JR東、鉄道持つIT企業に



- JR東が目指す将来のサービス像
- ① すでにいる時期や曜日に関引運賃
→ 周回数利用促進や混雑の平準化
 - ② 商業施設やホテルの利用者に割引運賃
→ 鉄道と「非鉄道」の相互送客を喚起
- コロナ禍でもSuicaの発行枚数は拡大続く
- 2004年度に1000万枚突破、足元では約3000万枚超
 - 楽天ID：1個以上 ヤフー1ヶ月間継続：8500万に匹敵
 - Suica経済圏の構築が成長の力基

ビッグBiz

金融参入、競争力高める

Suica・えきねっと・データ統合へ

モバイル決済を組織したスイカの発行枚数は21年度時点で約1億2000万枚に達し、これはヤフーのID登録者数に匹敵する。JR東はSuicaの発行枚数を増やすだけでなく、ビッグBizというデジタル経済圏の構築を目指している。Suicaの発行枚数は21年度時点で約1億2000万枚に達し、これはヤフーのID登録者数に匹敵する。JR東はSuicaの発行枚数を増やすだけでなく、ビッグBizというデジタル経済圏の構築を目指している。

手のかからない」運行を追及。JR東日本管内の駅は5割弱にあたる約760駅が無人駅だが、さらに無人化を進める。鉄道事業の社員数は4000人削減。2025～30年にも山手線を始め都心部でのワンマン化に踏み込む。新幹線の保線では、レールや設備のモニタリング車両の導入で、目視による



点検作業を50%削減する。地方ローカル線は、国と一体となって徹底的に切り捨てる。こうした施策で28年3月期までに鉄道業務のオペレーション費用を1000億円削減する目標を掲げている。

「20%は別の仕事を」

こうしたコスト削減、人員削減と一体で、22年1月には業務時間の2割を普段とは違う仕事にあてる「20%ルール」を導入。

すでに、千葉支社管内の本線乗務員に対しても3月ダイヤ改で行路に「その他時間」が導入され、駅業務や企画業務、車両の清掃を行わせる攻撃が始まっている。7月には全駅が(営業)統括センター化され、統括センターに組み込まれていない千葉・蘇我・佐倉・習志野運輸区の全乗務員(本体エルダ―社員除く)を対象に営業統括センターとの兼務発令が強行されようとしている。

「鉄道は『傍流』『片手間』 儲からない仕事」

本線乗務員、駅、検修、設備、さらにグループ会社などで働く鉄道労働者は、一日一日、定時運行や安全運行を神経をすり減らしながらを守りぬいているのだ。こうした仕事を「傍流」「片手間」「儲からない仕事」として扱い、

とにかく「新たな価値の創造」(「金もつけ!」)のことを考えるというのは本当にふざけ切った話だ。

次元を超えた分社化・転籍、「ホールディングス化」

JR東日本の「IT企業化」は、1987年の国鉄分割・民営化、2000年以降の業務外注化の開始と匹敵するような大転換であり、鉄道業務を最終的に放り投げ、次元を超えた分社化・転籍、JR東日本の「ホールディングス化」を一気に進めるものだ。安全はとことんないがしろにされ、労働条件の破壊、「労組なき会社化」の完成を狙うものだ。

会社の攻撃を打ち破る何よりの力は団結すること、闘う労働組合の力を職場に取り戻すことだ。現状への怒りや不安が「こんな制度はいらぬ!」「廃止を!」という現場からの声と行動になることを、会社は何よりおそれている。どんなに技術が発展しても、現場労働者抜きで鉄道を運行し、安全を守ることはできないからだ。会社の施策を打ち破る力はこの現場の力にある。

「廃線反対」の声が次々に



久留里線廃線をめぐり住民説明会 (千葉テレビ)

全て廃線反対の意見

6月1日に亀山地区における住民説明会が開催された。60ある席は全て埋まり、発言者は14名で全て廃線反対の意見だった。

説明会では、次のような意見が出されました。

JRは黒字で配当しているのに赤字を理由に廃線はおかしい

久留里〜上総亀山間は日中帯に5時間半も列車が来ない。利用したくても利用できない。

電力はどんな過疎地の一軒家でも電線は撤去しないで電気を送る。東電から電線撤去の話があるのか。(千葉県は「ない」と回答)

亀山ダムを維持するには(リスク管理の点でも)鉄道は必要。

子供が学校に通うのに、久留里線が久留里止まりのため部活ができず悔しい思いをした。(他にも子供久留里線利用で苦労した話が出されました)

国鉄・分割民営化の時、赤字路線はしないと云ったのに赤字をいうのはおかしい。

観光協会の立場からも豊かな観光資源を活かし、利用者の誘致をやって欲

しい。廃線にしないで欲しい。

「鶏が先か卵が先かで、鉄道がないとますます過疎化が進む」。

2日と3日に予定されていた松丘地区、久留里地区説明会について、台風を理由にその場で「中止」が決定された。会場からは「それでどうやって住民の意見を聞くのか」と声が上ががり、千葉県は「検討する」と答えた。

千葉県・君津市・JR千葉支社の「検討会議」で座長になった日本大学理工学部・藤井敬宏特任教授は「鉄道はインフラではない」という、とんでもない発言をしている。JR千葉支社担当者は「引き続き総合的に検討したい」としか回答しなかった。

「本数少ないから利用減」「JR東の赤字穴埋めは」
久留里線説明会 住民が訴え

久留里線沿線の住民は、JR千葉支社に「本数少ないから利用減」「JR東の赤字穴埋めは」などと訴えている。説明会では、住民が「本数少ないから利用減」「JR東の赤字穴埋めは」と訴えている。説明会では、住民が「本数少ないから利用減」「JR東の赤字穴埋めは」と訴えている。



非公開で「検討会議」
千葉県や君津市、JR東日本千葉支社などが「久留里線沿線地域交通検討会議」の初会合が、5月12日に君津市で開催された。会議には地元代表も呼ばれたが非公開だ。その場でも地元代表から存続を望む声が上ががり、地元での説明会を開く方針が決められた。

乗務員の監視カメラ設置を

直ちに中止しろ！



乗務員は前後から監視

JR東日本は、乗務員を正面から監視するカメラの設置を行うことを動労総連合に説明してきた。目的は、体調不良により運転に支障を来す「事象」が発生していることから「次世代EBシステム」の機能のひとつとして乗務員の状態を常時モニターするとしており、6月1日以降、習志野運輸区の1編成で試行するとしている。列車の運転台には、助手席側の前方を撮影するカメラの他、乗務員を背後から撮影するカメラが設置されており、今回の監視カメラが設置されると乗務員は前後から監視されることになる。

会社は、「体調不良等による事象の発生に対応するため」と説明しているが、監視カメラを設置したからといって「事象」を未然に防げるわけではない。

逆に、乗務員への過度の負担を強いることにより集中力が低下するなど運転保安上の問題が発生することは明らかだ。

乗務行路緩和、乗務員の

増配置を行え！

しかも、この間、ダイヤ改の度に乗務員のハンドル率は増えて限界に達している。その上、「多様化・融合化」「統括センター」化、行路への「その他時間」設定、「休日勤務」の強制等々、休む間もなく働かされている状況だ。こうした中で「体調不良」に陥り、「事象」が発生しているのだ。

問題は、乗務員を監視することではなく、「多様化」による兼務等を中止すること、乗務行路を緩和すること、休日勤務が発生しない要員の配置を行い、在宅休養時間を確保することだ。

65歳以降雇用延長裁判・労働委員会闘争



(次回) 6月21日(水)11時~千葉
県労委 14時~千葉地裁601法廷

動労千葉は、65歳以降の雇用延長拒否・職場からの動労千葉排除をめぐって労働委員会闘争と裁判闘争が行われている。

裁判では、動労千葉の闘いが12年にわたって外注化を阻止してきたことを会社が嫌悪し、65歳以降の雇用拒否を続けていることを明らかにした。また、CTSは団交でのウソの回答について認めようとせず、「誤解を招く回答」「交渉員の認識不足」と繰り返し返した。すべては動労千葉排除のために雇用延長が拒否され続けているのだ。70歳までの雇用確保をかちとるために、動労千葉は、職場闘争と一体で裁判・労働委員会闘争を闘っている。